

令和6年度(令和5年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表
2次評価者

市民経済部観光課

市民経済部長 大山 仁志

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
13-1	観光振興事業	B	半田市の観光資源を活用したプロモーションやイベント等を実施することで魅力発信と誘客を図るとともに、通年のいいかも半田キャンペーン等により回遊の促進や日常的な誘客を図った。また、今までのポスターやチラシなどによる広報に加えて、SNS広告の推進や旅行系インフルエンサーの活用により新たな客層の誘客に繋がり前年度の入込客数を上回った。一方で、雨天など自然的要因によりイベントの中止や縮小などがあり、入込客数は目標値を下回った。 従来のイベントによる誘客の他、新たな取組みとしてクルーズ客船「にっぽん丸」の衣浦初寄港を誘致して、オプショナルツアーを実施したことで、誘客を促進し、半田の魅力を発信することができたが、目標値達成のためにはさらなる日常的な誘客が必要である。	現状維持	引き続き、デジタル社会の進展に沿った広報ツールの活用を推進するほか、本市に根付いた発酵・醸造文化を核としたプロモーションやガストロノミーツーリズムに取り組む。また、既存の観光資源の磨き上げや魅力の発信を行うとともに、観光施設だけでなく地域事業者とともにインバウンドも視野に入れた受け入れ態勢の強化を図る。
13-2	半田市観光協会支援事業	B	観光誘客のフロント業務として、ラジオやテレビ等のメディアへの情報発信や取材対応、ホームページやSNS等による観光情報発信などを行うことで誘客促進を図った。また、国の交付金を活用し、インバウンド誘客を目指したファムトリップに地域事業者と連携して取り組み、新たな誘客コンテンツの創造と国内外へ魅力発信の足がかりを作ることができた。	改善推進	引き続きSNS等のデジタルによる情報発信を行うとともに、それらの効果の検証・分析を実施し、より効果的な情報の発信を図っていく。また、地域が培ってきた歴史や文化を生かした観光を目指し、観光資源の磨き上げと醸成を行っていく。
13-3	半田運河活性化推進事業	B	既存のイベントである、春の半田運河の鯉のぼりと萬三の白モッコウバラ祭、夏のCanal Nightは、季節を感じる運河周辺イベントとして広く市民や観光客に定着してきており、半田運河の知名度向上やブランド力向上に大きく寄与している。令和5年度は新たに、日常的な賑わい創出を目指す取り組みの一つとして、半六庭園内に風鈴棚を夏に1か月程度設置することで、来訪客の立ち寄り先として半田運河エリアの回遊促進に繋がり、また、写真映えスポットとして新たな客層の誘客にも繋がった。	拡充推進	イベントによる誘客や知名度向上だけでなく、日常的な半田運河周辺の賑わい創出のため、歴史的・文化的観光施設を活用しながら、新たな立ち寄り先の創出や回遊促進を目指す。また、名鉄知多半田駅・JR半田駅周辺における中心市街地活性化には、半田運河エリアの賑わいは不可欠であるため、JR高架事業や土地区画整理事業など周辺で行われている事業と連携するとともに、関係各所と協議を進め、新たな立ち寄りスポットの創出を目指していく。

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
13-4	第九回はんだ山車まつり開催事業	B	多くの観客に来ていただき、新たに創設した+HANDAエリアでは、半田の歴史や食文化をPRすることができた。また、提灯の絵付け体験を実施することで市民や子供たちに山車まつりに親しんでもらい、シビックプライドの醸成を図ることができた。課題としては、まつり会場周辺に観客の飲食や休憩場所となる大きなスペースがないことなどから、道路内や特定の場所に観客が密集することによって、観客の誘導が困難であった。次回開催時は、まつり会場で観客を分散させる仕組み作りをするともに動線の確保などを行う必要がある。	終了	令和5年事業完了により終了。
13-5	半田赤レンガ建物管理運営事業	C	前年度に地元企業とコラボした「知多和牛のローストビーフ丼」の商品開発に引き続き、スイーツ部門として、市内の就労支援施設さずなや、松華堂とコラボした「赤レンガ琥珀ソフト」を新たに開発した。また、クリスマスイベントでは、館内外のイルミネーションスポットを増設したほか、新たな赤レンガ建物の活用として、体験型デジタルアートの実施にくわえて、インフルエンサーによるイベントPRにより、イベント来場者数が昨年比260%（合計17,931人）に繋がった。一方、年間来場者の合計は前年度より減少しており、イベントに頼らない日常的な誘客への取り組みに課題を残した。	改善推進	日常的な来場者増加のため、人を引き付ける建物の新たな魅力の創出や機能の向上を目指していく。令和6年度中に実施する指定管理者の選定においてもこの点を重視していく。インフルエンサーによるイベントPRは影響力の高さと即効性の実績が確認できたため、拡充を図る。
課等長	1次評価（令和5年度の総括評価）				
B	SNSやWebによる広報を積極的に活用し、幅広い層に本市の魅力発信することができ、来訪に繋げることができた。第九回はんだ山車まつりでは、市内小中学校による提灯の絵付け企画や高校生による場内アナウンスの実施など多くの市民に関わっていただき、市民一丸となって取り組むことにより、イベントとしての盛り上げだけでなくシビックプライドの醸成に寄与することができた。日常的な誘客を目指し、新たに旅行系インフルエンサーを活用した観光施設の紹介や半六庭園内に季節を感じる映えスポットの設置などを行うことで、新たな客層の誘客を図ることができた。第九回はんだ山車まつりを除く入込客数は、昨年度より増加しているものの、目標値には達していないため、引き続き、日常的な誘客を目指すとともに、デジタル技術を活用した観光PRを強化し、県外・国外も含め、広く発信していく。				
部等長	2次評価（令和5年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	コロナ禍を経て観光客の価値観やニーズが大きく変化している中、新たな情報拡散・誘客事業に取り組み、新規来訪者の増加や本市の知名度向上に繋げることができた。今後、この地域が培ってきた歴史や文化を活用し、地域に根差した観光を推進するため、観光施設やその周辺エリアにおける受け入れ態勢の整備と情報発信の強化を推進していく。また、地域事業者との連携を強めるとともに市民を含めた観光関係人口の増加を図り、地域の活力向上を目指すとともに、インバウンドも視野に入れた観光分野における新たな価値の創出に取り組んでいく。				

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	13-1	
PDCA	主要事業名	観光振興事業	部課名	市民経済部観光課	担当 内線	濱田 328	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光 全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 30,812 千円 会計 一般会計 歳出科目： 06.01.04.02.50					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	事業概要等	事業概要： 半田市の観光資源「山車・蔵・南吉・赤レンガ」を活用し、観光振興を図る。名鉄とタイアップしたいいかも半田キャンペーン推進事業や寿司にスボットをあてた食の観光推進事業、新美南吉生誕110年に合わせた観光PRのほか、インフルエンサーを活用した観光情報拡散促進事業を実施し、情報発信と誘客を強化する。					
		事業目的： 半田市の観光の魅力をより一層PRし、観光客の誘客や知名度を向上させるとともに、地域経済の活性化を図る。					
		事業内容： いいかも半田キャンペーン推進事業、食の観光推進事業、観光客回遊促進事業、新美南吉生誕110年観光PR事業、観光情報拡散促進事業ほか					
		問題点： 年齢層により情報収集の媒体が異なるため、様々なツールを活用し、効果的課題等： な情報発信を行う必要がある。					
	予算額	主要事業とする理由					
	30,812 千円	集客イベント開催、観光プロモーション、飲食店等への日常的な回遊、食の観光推進など、様々な分野の観光振興施策を展開する事業であり、半田市の観光振興を推進する上で根本的かつ中核的な事業であるため。					
	財源内訳	得られる成果					
	市費 17,607 千円 国費 8,016 千円 県費 0 千円 その他 5,189 千円	観光客の増加や「歴史と文化のまち半田」の認知度向上による地域経済の活性化と半田市のイメージ向上を図ることができる。					
	目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度		単位
年間観光入込客数	実績値 787 目標値 1,760	1,343 1,027	— 1,699	千人 千人			
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
D 実績値 得られた成果と	決算額	得られた成果					
	29,749 千円	既存のイベントや観光プロモーションに加えて、新たに旅行系インフルエンサーによるSNS観光情報発信を行い誘客を図った。SNS内で紹介した観光施設では来場者数が増加しており、SNS投稿の視聴回数も多く、半田市の知名度向上にも繋がった。					
	財源内訳	成果指標					
		令和5年度	単位				
年間観光入込客数	実績値 1,575 目標値 1,699	千人 千人					
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 半田市の観光資源を活用したプロモーションやイベント等を実施することで魅力発信と誘客を図るとともに、通年のいいかも半田キャンペーン等により回遊の促進や日常的な誘客を図った。また、今までのポスターやチラシなどによる広報に加えて、SNS広告の推進や旅行系インフルエンサーの活用により新たな客層の誘客に繋がり前年度の入込客数を上回った。一方で、雨天など自然的要因によりイベントの中止や縮小などがあり、入込客数は目標値を下回った。イベントによる誘客は知名度や魅力を発信する手段としては有効であるものの、天候に左右されることが多いため、目標値達成のためにはさらなる日常的な誘客が必要である。					
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	改善推進 引き続き、デジタル社会の進展に沿った広報ツールの活用を推進するほか、本市に根付いた発酵・醸造文化を核としたプロモーションやガストロノミーツーリズムに取り組む。また、既存の観光資源の磨き上げや魅力の発信を行うとともに、観光施設だけでなく地域事業者とともにインバウンドも視野に入れた受け入れ態勢の強化を図る。					
	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地	ある	※対象・手段の変更	
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地	—		
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない					

目標項目（予算計上時に作成）
予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）
主要施策の成果報告書で活用

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	13-2																																					
PDCA	主要事業名	半田市観光協会支援事業	部課名	市民経済部観光課	担当	濱田																																						
					内線	328																																						
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光 全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 10,000 千円 会計 一般会計 歳出科目： 06.01.04.02.56																																											
	事業概要等	事業概要： 本市に訪れる観光客の常時対応や観光イベントの企画・運営等、観光振興の中心的な存在である半田市観光協会の活動を支援する。																																										
		事業目的： 半田市観光協会の活動を支援することで、市全体のおもてなし体制を強化し、イベントを始めとする各種誘客施策を実施することで、本市の観光振興を推進する。																																										
		事業内容： 情報発信事業、観光企画創出事業、回遊性向上事業等の観光協会が実施する事業を支援する。																																										
		問題点・課題等： コロナ禍の影響により、人々の生活スタイルや価値観の変化など、観光を取り巻く環境が大きく変化しており、観光協会の事業運営も社会の変化に即した対応が求められている。																																										
	予算額	主要事業とする理由																																										
	10,000 千円	観光情報の発信、観光案内、観光イベントの企画運営や関係者間の調整など、大きな役割を担っている半田市観光協会を支援することは、本市の観光振興上重要であるため。																																										
	財源内訳	得られる成果																																										
	市費 10,000 千円	半田市観光協会の運営を支援することで、本市における観光振興施策を安定的かつ継続的に推進することができる。																																										
	国費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">目標値や目指すべき状態</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">年間観光入込客数</td> <td>実績値</td> <td>787</td> <td>1,343</td> <td>—</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1,760</td> <td>1,027</td> <td>1,699</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	年間観光入込客数	実績値	787	1,343	—	千人	目標値	1,760	1,027	1,699	千人		実績値					目標値					その他	実績値					目標値			
目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																							
年間観光入込客数	実績値	787	1,343	—	千人																																							
	目標値	1,760	1,027	1,699	千人																																							
	実績値																																											
	目標値																																											
その他	実績値																																											
	目標値																																											
D 実績値 得られた成果と	決算額	得られた成果																																										
	10,000 千円	半田市観光協会への補助金交付により、同協会の運営の安定化を図ることができた。また、観光案内業務や観光事業関係者との調整、ホームページの更新やSNS等による観光情報の発信などを行うことで、おもてなし体制の強化や市内外へ観光情報を広く発信することができた。																																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">年間観光入込客数</td> <td>実績値</td> <td>1,575</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1,699</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					成果指標		令和5年度	単位	年間観光入込客数	実績値	1,575	千人	目標値	1,699	千人																											
	成果指標		令和5年度	単位																																								
年間観光入込客数	実績値	1,575	千人																																									
	目標値	1,699	千人																																									
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 観光誘客窓口の一つとして、ラジオやテレビ等のメディアへの情報発信や取材対応、ホームページやSNS等による観光情報発信などを行うことで誘客促進を図った。また、観光客と地域事業者を繋ぐ役割としてだけでなく、国の交付金を活用しインバウンド誘客を目的としたファムトリップに取り組み、新たな誘客コンテンツの創造と国内外へ魅力発信を行うことができた。																																										
	A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	改善推進 引き続きSNS等のデジタルによる情報発信を行うとともに、それらの効果の検証・分析を実施し、より効果的な情報の発信を図っていく。また、地域が培ってきた歴史や文化を生かした観光を目指し、観光資源の磨き上げと醸成を行っていく。																																									
	観点別評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">必要性</th> <th colspan="2">有効性</th> <th colspan="2">効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①市の関与の妥当性</td> <td>妥当</td> <td>④上位施策への貢献</td> <td>大きい</td> <td>⑦コスト削減余地</td> <td>ない</td> </tr> <tr> <td>②市民ニーズ</td> <td>高い</td> <td>⑤成果向上の余地</td> <td>ある</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③休廃止の影響</td> <td>大きい</td> <td>⑥類似事業の有無</td> <td>ない</td> <td>⑧受益者負担適正化余地</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					必要性		有効性		効率性		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない	②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある			③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—														
必要性		有効性		効率性																																								
①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない																																							
②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある																																									
③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—																																							

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	13-3																																							
PDCA	主要事業名	半田運河活性化推進事業	部課名	市民経済部観光課	担当	濱田																																							
					内線	328																																							
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光 全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 15,011 千円 会計 一般会計 歳出科目： 06.01.04.02.57																																												
	事業概要等	事業概要： 半田運河の景観や周辺観光施設、醸造の歴史・文化を活かしたイベントを充実させることにより、年間を通じた賑わいの創出を図る。飲食出店に加えて音楽・醸造・アート企画を中心とした新たなイベント「半田運河HOTORI HOLIDAY」の開催や、四季を感じる装飾（風鈴等）を半六庭園に設置し、写真映えするスポットを創出する「半田運河誘客スポット設置事業」を実施し、半田運河の魅力を発信する。																																											
		事業目的： 半田運河の景観や歴史・文化を活用したイベントを通して、半田運河の認知度の向上と、賑わいの創出を図る。																																											
		事業内容： 半田運河HOTORI brunch、HOTORI HOLIDAY、Canal Night、萬三の白モッコウバラ祭等のイベントの実施、鯉のぼりの設置、半六庭園への四季を感じる装飾の設置等																																											
		問題点： 新型コロナウイルス感染症対策の徹底、半田運河周辺の飲食店等との連携 課題等：																																											
	予算額	主要事業とする理由																																											
	15,011 千円	歴史的景観、建造物や施設が残る半田運河周辺は、本市特有の観光資源であり、さらなる賑わいを創出するポテンシャルを有している。また、今後、JR半田駅の高架化や駅前土地区画整理事業の新しいまちづくりによる賑わいを創出するうえにおいても、半田運河の観光振興との連携は不可欠であるため。																																											
	財源内訳	得られる成果																																											
	市費 10,820 千円	半田運河の認知度・イメージの向上により、観光入込客数の増加による賑わいの創出やブランド力の向上を図ることができる。																																											
	国費 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">目標値や目指すべき状態</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">半田運河周辺観光入込客数</td> <td>実績値</td> <td>144</td> <td>232</td> <td>—</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>430</td> <td>161</td> <td>307</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	半田運河周辺観光入込客数	実績値	144	232	—	千人	目標値	430	161	307	千人		実績値					目標値					その他	実績値					目標値				
	目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																							
	半田運河周辺観光入込客数	実績値	144	232	—	千人																																							
		目標値	430	161	307	千人																																							
		実績値																																											
		目標値																																											
その他	実績値																																												
	目標値																																												
県費 千円																																													
その他 4,191 千円																																													
D 実績値 得られた成果と	決算額	得られた成果																																											
	14,701 千円	半田運河HOTORI HOLIDAYやCanal Night等の開催に加えて、新たに歴史的・文化的施設を活用した誘客スポットの創出等を行ったことにより、観光入込客数は目標値を上回り、広く市民や観光客に半田運河の魅力を発信することができた。																																											
	財源内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">半田運河周辺観光入込客数</td> <td>実績値</td> <td>411</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>307</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					成果指標		令和5年度	単位	半田運河周辺観光入込客数	実績値	411	千人	目標値	307	千人																												
	成果指標		令和5年度	単位																																									
	半田運河周辺観光入込客数	実績値	411	千人																																									
		目標値	307	千人																																									
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 既存のイベントである、春の半田運河の鯉のぼりと萬三の白モッコウバラ祭、夏のCanal Nightは、季節を感じる運河周辺イベントとして広く市民や観光客に定着しており、半田運河の知名度向上やブランド力向上に大きく寄与している。令和5年度は新たに、日常的な賑わい創出を目指す取り組みの一つとして、半六庭園内に風鈴棚を夏に1か月程度設置することで、来訪客の立ち寄り先として半田運河エリアの回遊促進に繋がり、また、写真映えスポットとして新たな客層の誘客にも繋がった。																																											
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	拡充推進 イベントによる誘客や知名度向上だけでなく、日常的な半田運河周辺の賑わい創出のため、歴史的・文化的観光施設を活用しながら、新たな立ち寄り先の創出や回遊促進を目指す。また、名鉄知多半田駅・JR半田駅周辺における中心市街地活性化には、半田運河エリアの賑わいは不可欠であるため、JR高架事業や土地区画整理事業など周辺で行われている事業と連携するとともに、関係各所と協議を進め、新たな立ち寄りスポットの創出を目指していく。																																											
	観点別評価	必要性		有効性		効率性																																							
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある																																						
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※手段の変更																																							
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—																																						

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	13-4		
PDCA	主要事業名	第九回はんだ山車まつり開催事業	部課名	市民経済部観光課	担当 内線	濱田 328		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光 全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 105,000 千円 会計 一般会計 歳出科目： 06.01.04.02.60					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用		
	事業概要等	事業概要： 5年に一度、市内の山車31輦が勢揃いする知多半島最大のイベント「はんだ山車まつり」を開催するため、山車組、市民、関係団体等で構成する第九回はんだ山車まつり実行委員会へ、山車運行、警備、会場整備、各種PR等、開催に係る費用の一部を補助する。						
		事業目的： 全国から観光客を誘客し、半田の山車文化をPRする。						
		事業内容： 第九回はんだ山車まつり開催費補助金の交付						
		問題点： ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底 課題等： ・物価の急激な高騰 ・まつりエリアにおけるイベント利用可能スペースの減少						
	予算額	主要事業とする理由						
	105,000 千円	はんだ山車まつりは、2日間で50万人以上が来場する知多半島最大のイベントであり、全国から来場する観光客に半田の山車文化や観光の魅力をPRする絶好の機会となるため。						
	財源内訳	得られる成果						
	市費 100,000 千円	半田市への観光客の誘客による市内経済の活性化とともに、半田の山車文化の全国への発信に伴うシビックプライドの醸成及び山車組関係者による山車文化の保存伝承活動の活性化を図ることができる。						
	国費 千円	目標値や目指すべき状態						
	県費 千円		令和3年度	令和4年度	令和5年度		単位	
	その他 5,000 千円	第九回はんだ山車まつり来場者数	実績値	—	—		—	千人
			目標値	—	—		550	千人
			実績値					
			目標値					
D 実績 得られた成果と	決算額 129,879 千円	得られた成果						
	財源内訳	目標値である来場者数55万人の方に来場していただき、全国へ半田の山車文化を発信することで知名度向上につなげることができ、山車組関係者をはじめ市民のシビックプライド醸成を図ることができた。						
		成果指標						
			令和5年度	単位				
	第九回はんだ山車まつり来場者数	実績値	550	千人				
		目標値	550	千人				
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 多くの観客に来ていただき、新たに創設した+HANDAエリアでは、半田の歴史や食文化をPRすることができた。また、提灯の絵付け体験を実施することで市民や子供たちに山車まつりに親しんでもらい、シビックプライドの醸成を図ることができた。課題としては、まつり会場周辺に観客の飲食や休憩場所となる大きなスペースがないことなどから、道路内や特定の場所に観客が密集することによって、観客の誘導が困難であった。次回開催時は、まつり会場内で観客を分散させる仕組み作りをするとともに動線の確保などを行う必要がある。						
	今後の事業の方向性	終了 令和5年事業完了により終了。						
A 課題の解決に向けた	観点別評価	必要性	有効性		効率性			
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減 減余地	ある		
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化余地	※手段の変更		
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無	ない		—		

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート							No.	13-5
PDCA	主要事業名	半田赤レンガ建物管理運営事業	部課名	市民経済部観光課			担当	濱田
							内線	328
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 64,244 千円 会計 一般会計 歳出科目： 06.01.04.03.06							
	事業概要等	事業概要： 観光客の市内回遊の拠点施設として多くの観光客を誘客するため、飲食提供、物販サービス、常設展示室公開、企画展・イベント開催、貸館サービス等に関して、民間事業者のノウハウや創意工夫による指定管理者制度を活用した管理運営を行う。						
		事業目的： 半田赤レンガ建物の歴史と文化財的価値の発信を通して、認知度向上と来訪者増加に伴う消費額の増加を図る。						
		事業内容： 指定管理者による半田赤レンガ建物の管理運営						
		問題点・課題等： 新型コロナ収束後も、来場者数や常設展示室入館者数がコロナ禍以前まで戻っていない状況である。観光客や日常的な利用者を増加させるため、建物自体の魅力の磨き上げや来館者の目的に則した情報の発信が必要。						
	予算額	主要事業とする理由						
	64,244 千円	全国屈指の規模を誇り、文化財的価値もある建物を観光資源として有効活用することは重要であるため。						
	財源内訳	得られる成果						
	市費 63,909 千円	建物がもつ歴史と文化財的価値の市内外での認知が進み、市民の郷土愛の醸成と来訪者増加に伴う消費額の増加が期待できる。また、建物の活用を通じて文化財の保存に繋がられる。						
	国費 千円	目標値や目指すべき状態						
	県費 千円		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位		
	その他 335 千円	半田赤レンガ建物来場者数	実績値	198	411	—	千人	
			目標値	520	300	520	千人	
			実績値					
			目標値					
D 実績値 得られた成果と	決算額	得られた成果						
	64,100 千円	イベントや広報の強化などを行い、カフェ・ショップ売上及びカプトビール販売数は、前年比130%を超える結果となった。また、クリスマスイベントでは館内外のイルミネーション強化や新たにインフルエンサーによるイベントPRを行ったことで、客層の変化や遠方からの来場が多くあり、新しい層への魅力発信に繋がった。						
	財源内訳	成果指標						
			令和5年度	単位				
	半田赤レンガ建物来場者数	実績値	373	千人				
		目標値	520	千人				
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 前年度に地元企業とコラボした「知多和牛のローストビーフ丼」の商品開発に引き続き、スイーツ部門として、市内の就労支援施設さずなや、松華堂とコラボした「赤レンガ琥珀ソフト」を新たに開発した。また、クリスマスイベントでは、館内外のイルミネーションスポットを増設したほか、新たな赤レンガ建物の活用として、体験型デジタルアートの実施にくわえて、インフルエンサーによるイベントPRにより、イベント来場者数が昨年比260%（合計17,931人）に繋がった。一方、年間来場者の合計は前年度より減少しており、イベントに頼らない日常的な誘客への取り組みに課題を残した。						
	A 課題の解決に向けた	改善推進 日常的な来場者増加のため、人を引き付ける建物の新たな魅力の創出や機能の向上を目指していく。令和6年度中に実施する指定管理者の選定においてもこの点を重視していく。インフルエンサーによるイベントPRは影響力の高さと即効性の実績が確認できたため、拡充を図る。						
	観点別評価	必要性	有効性		効率性			
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	※対象・手段の変更	
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地	ある				
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—		

目標項目（予算計上時に作成）
予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）
主要施策の成果報告書で活用